

竹のロングラン商品とヒット商品の創出研究

豊田修身・阿部優・二宮信治・小谷公人・寒竹慎一
大分県竹工芸・訓練支援センター

Development and Research of Longlived Goods and Million Seller goods by Bamboo

Osami TOYODA Masaru ABE Sinji NINOMIYA Kimito KOTANI Shinichi KANTAKE

Oita Prefectural Bamboo Craft and Training Support Center

要旨

伝統に培われた自然素材の製品が見直されており、業界の中には新たな視点で竹産業を捉え、明日の産業としての期待をかけてチャレンジをしている企業も少なくない。そこで、こうした業界を支援するため、本研究では長期的視点から業界のニーズに応えるロングラン商品開発と、刻々と変化するニーズに即応的に応えるヒット商品開発研究という2つのタイプのデザイン開発研究を行った。ロングラン商品研究は「ユニットスクリーン」の開発を目指し、ヒット商品研究では「温泉バスケットの開発」と「男のバッグの開発」に取り組んだ。

1. はじめに

県産品の顔である別府地域を中心とした竹工芸品産業は、昭和54年に国から伝統的工芸品の指定を受けて各種の振興をはかっているが、技術、市場、製品の成熟化、及び不況による消費の低迷、海外製品との競合等により、大変厳しい状況にある。そこで、業界の商品開発を多面的に支援するため2本立ての研究に取り組んだ。3ヶ年の継続研究で、一年ごとに試作品による提案説明会（研究発表会）を開催して、製品化をはかり、3年後にはデザイン性の高いロングラン商品といくつかのヒット製品とを創り出し、業界の主力商品に仕上げていく事をめざした。

テーマの設定では、まず、スタッフ全員でアイデアを出し合った。これまで温めていたテーマや取り組みたいテーマ、そして、産地に話題を提供するようなテーマなどを自由に出してもらい、約50のテーマが挙がった。主なものを列挙すると次のとおりで、従来技術、従来市場のものもあれば、新技術、新市場の開拓になるような新しいチャレンジを促すテーマもあり、その中から3つのテーマを選んだ。（Fig.1）

ユニットスクリーンの開発
竹と和紙のプロダクトライト
伝統建築内装材への展開
杉と竹による大分グッズの開発
丸竹による縁台やベンチ
小さな楽器とキーホルダー
「竹の詠え商品作ります」提案
煤竹で考える商品提案
めいめいで使う竹の箸、100点

給食の竹の箸のデザイン
創作青竹の器
竹のガーデニング製品開発
竹による福祉製品の開発
竹の町並み製品の部品化
温泉バスケットの開発
漆塗装と柿渋による一閑張り製品
高品質国内製品ブランド化研究
温泉噴気を活用した漆塗装の産業化
竹のグリップ製品化研究
他産地とのコラボレーション製品
県内デザイナーのアイデア試作化研究
携帯用の竹の箸と箸入れ
男の竹のバッグ開発
玉入れワールドカップ用籠の提案
建築や内装での竹活用事例集の作成
大型オブジェのデザイン提案
竹製品の修理相談所開設
竹冠の字のモノ、再現製品化
名品復刻とリデザイン
別府の誇る高技術製品ベスト100
欧米向け製品のデザイン研究
樹脂処理丸竹製品
新野球のバット
パソコン周辺製品
ハンモック
ショッピングバスケット（買物籠）
次世代竹製バッグ
海外製品との競合しない花籠

Fig.1 50のアイデアの一部

ロングラン商品は竹の用途をもっとインテリアや建築の空間に広げて新分野に展開していこうという狙いで、「ユニットスクリーン」の開発を選んだ。ヒット商品はターゲットを絞り込んだ製品開発を試みようということと、話題性がありヒットする可能性も高い「温泉バスケット」と「男のバッグ」を選んだ。

2. 研究内容

2.1 ロングラン商品開発

竹が建築やインテリアに見直されている今、更なる需要を開拓するため、パーティション、衝立等に展開できる一定サイズのスクリーンを開発した。デザインコンセプトとしては次の2点を掲げた。

- ・シンプルで多用途なデザイン
- ・高度な編組の技術をスクリーンの中に生かす

具体的なねらいは、サイズを規格化して業界全体で量産化できるようにすることと和風にも洋風にもマッチするデザインで多様な展開を図ることを目指した。特に表裏ができないようなデザインと加工に力を注いだ。白竹と炭化竹を編組に用いて、下記の写真 (Fig. 2) のような5つの編組パターンを試作した。サイズは60cm角と50cm角の2種類で、木枠は桤材で加工した。

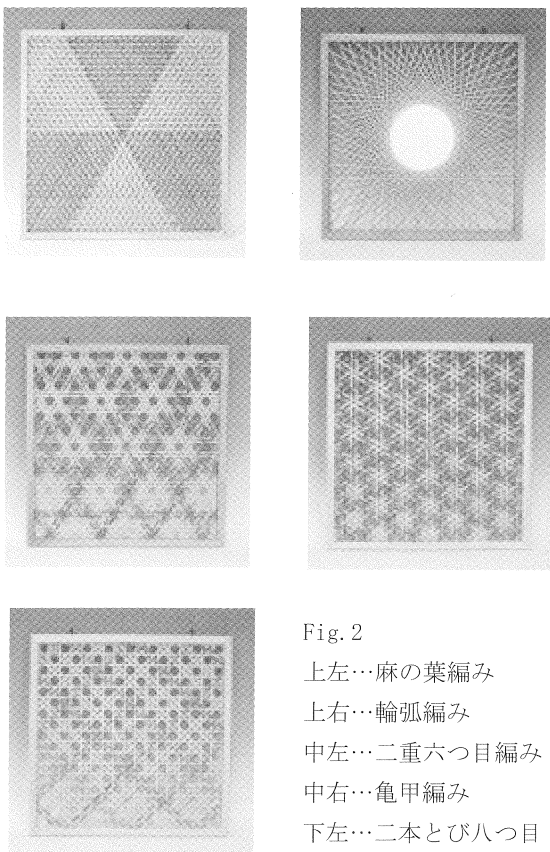


Fig. 2

上左…麻の葉編み
上右…輪弧編み
中左…二重六つ目編み
中右…亀甲編み
下左…二本とび八つ目

2.2 開発試作品による展開事例

多様な展開を具体的に示すために洋風と和風のそれぞれの事例を製作した。洋風は鎖による吊り下げ型のスクリーン (Fig. 3) で、和風の事例は掛け障子 (Fig. 4) と掛け襖 (Fig. 5) である。

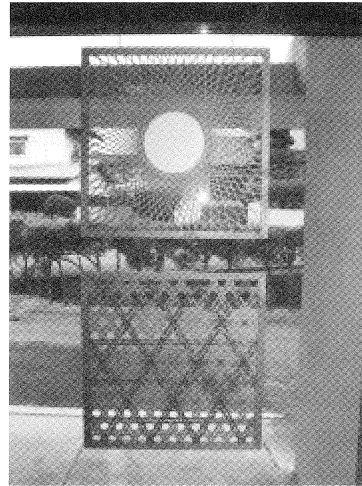


Fig. 3
吊下げスクリーン

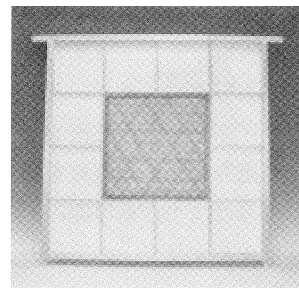


Fig. 4 掛け障子

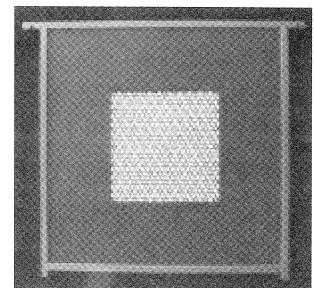


Fig. 5 掛け襖

2.3 ヒット商品開発—温泉バスケットの開発

温泉を生かした町づくりが別府市をはじめ県内の市町村で盛んに行われている。市内に共同浴場が多数点在する別府市は湯桶 (洗面器) を抱えて近くの温泉に出かける風景は「湯の町別府」の一つの風物詩でもある。そこで、別府近郊が竹製品の産地であることのPRと竹産業活性化のために、旅館やホテル、そして、市民が日常的に温泉に出かけるときに提げていく「竹の温泉バスケット」を開発した。コンセプトは次の2点である。

- ・ロッカー等に収納しやすいサイズや形態
- ・温泉に行きたくなる楽しい雰囲気

そして、次の3つのタイプの試作を考えた。

- ・タイプ1—洗面器が入る独特な形のもの
- ・タイプ2—手軽で機能的なもの
- ・タイプ3—低コストでホテル等に常備のもの

試作品3点を写真 (Fig.6) で示す。



Fig.6 右からタイプ1, 2, 3

2.4 ヒット商品開発—男のバッグの開発

女性向の竹のバッグ類が人気商品としてここ数年販路を拓げてきたが、男性用のバッグや小物入れかばんのようなものはこれまで竹ではあまり開発されていない。そこで、明日のヒット商品としての可能性を探るため、シンプルな形の中にオリジナルな雰囲気を持つ男のバッグを2タイプ開発した。コンセプトは次のとおりである。共に小脇に抱えるバッグで、大きいタイプはA4の書類が入るようなサイズとした。技術的な試みとしては、竹に落ち着いた重みのある雰囲気を持たせるため、素材は炭化竹、編みは丈夫な亀甲編み、塗装は拭き漆として、ふた部は皮革クラフトの工場の技術で仕上げた。(Fig.7)

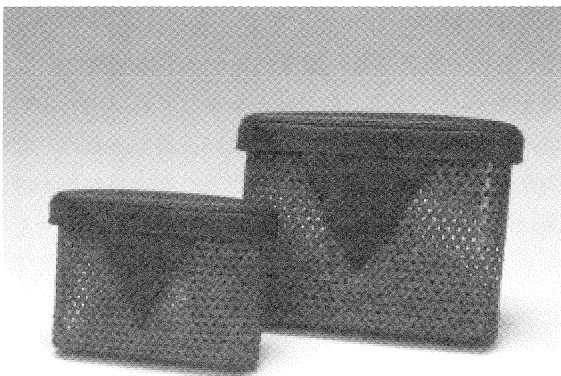


Fig.7 男のバッグ2点

3. 考察

ロングラン商品として一つのテーマ、ヒット商品として二つのテーマを掲げ、企画、デザイン、試作をスタッフ全員で取り組んだ。それぞれに話題性と提案性を持たせ、厳しい業界の現状に一石を投じることができたと感じている。

それぞれのテーマの考察は以下のとおりである。

ロングラン商品を目指している竹のユニットスクリーンは、展開事例のように和洋の空間に多様に使えるため、建具や建築をはじめとする各方面から関心が寄せられており、商品化の可能性は高いと考える。

ヒット商品を目指す温泉バスケットは、これらが身近なところで使われ、バスケットを提げて温泉に行くというスタイルが定着してくれば新たな商品になり得ると考える。

男のバッグは異種材の皮との組み合わせが1つの試みであったので、反響や意見を集めて分析して、ヒット商品としての可能性を今後も追求したい。

最後になりますが、ロングラン商品開発では活用提案のための「掛け障子」、「掛け襖」の製作において(株)ユウキさんに、ヒット商品開発では「男のバッグ」の皮革部分でオリジナルアートYANOさんにご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。